

<学校の教育目標>

志をもって生きる『向上』『礼節』『思いやり』

<令和の日本型学校教育>

すべての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現

<R3.9月実施 学びのアンケートから捉えた生徒の実態（学力・学習状況調査質問紙における岐阜県平均）>

▽授業で、自分の思っていることや感じていることを、きちんと言葉で表すことができますか。 できる、どちらかと言えばできる 59% (77%)

▽家で自分の計画を立てて勉強をしていますか。 している、どちらかと言えばしている 64% (66.7%)

▽学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 できる、どちらかと言えばできる 76% (78.3%)

「もっと自分の思いを表現することができるようになりたい」 「自分を伸ばすためにどうすればよいのか分からない」

<生徒の実態改善に向けた実践の構想>

- ①個々が主体的に自立して学習に取り組めるように、授業の改善を図る。特に「何を学ぶのか」を明確にする。
- ②多様な他者と学び合える集団となるように、意図のある生徒相互の交流を効果的に位置付ける。
- ③自分の学びを自覚する機会、今後の自らの学びへとつなげる機会として、「何を学んだのか」を振り返り、思いを表現する。

<実践主題>

「これをやろう」「なるほど」「これを学んだ」のある授業

